

令和4年度 自己評価公表シート（保育士）

かかわる職員の物心両面の幸せを実現し、子どもたちの周りにある家族一人ひとりの心を温かく癒し、子どもたちの素直で前向きな心を守り育てることで、地域の明るい未来に貢献する。

1. 保育目標

『根っこを育て 心・体 ゆたかに育つ』

1. 健康な体の成長を助長し、生きていく力を身につける。
2. 自立心を育て、社会性を養う。
3. 身近な環境に関わり、思考力を育てる。
4. 言葉と感性を豊かにし、心を育む。
5. 心の繋がりを意識させ、感謝と良心を育む道徳心を育む。

※みんなとなかよくする ※自分のことは、自分でできるようになる ※強い体と、やり遂げる心

2. 保育方針

『お互いに道徳を学びあう えがお保育園七つの原則』

1. 親が生まれてきた子に感謝できる機会を多く持つ。
2. 子が、産んでくれた親に感謝と敬愛の心が持てるように養う。
3. 働く女性の応援もしつつ、女性の在り方と家庭内教育を支援する。
4. 自由で伸びやかな表現をテーマに体育活動に積極的で、心身の健やかなる成長を本気で考え、素直、純粋、元気な子に誘う。
5. 地域の高齢者と触れ合い、三世代の繋がりと教育を本気で考え、実行する。
6. 「～を育てる」という思いやりに根付いた日本人らしい個性を育む。
7. 関わる大人も感動、成長できる、心の原点を見つめ続ける。

3. 目指す保育園像、園児像、保育士像

保育園像…大きな家族・安心安全な環境の中で、子どもの活動が豊かに展開される保育園
地域の方と交流し、だれもが気軽に利用できる保育園。

園児像…・素直、純粋、元気な子 ・親に感謝できる子 ・みんなとなかよくする。

・自分のことは自分でする。 ・強い体と、やり遂げる心。

保育士像…・笑顔を忘れずに対応できる保育士。 ・保護者から信頼される保育士。

・自らの保育を振り返り課題を見出し、専門性の向上を目指す保育士。

4. 研修基本方針

★将来を見据えた魅力ある保育園であり続けるためには、保育園の資産である職員が、持てる能力・感性・情熱を十分に発揮できるようにする。

★職員が自己評価に基づく課題を踏まえ保育園内外の研修等を通じて、必要な知識・技術の修得・維持及び向上に努める。

研修の目標

①自己評価点検をして自己研鑽に努める。②保育を振り返り、課題をみつけていく。③専門性の向上を目指す。

【総評】

家庭との連携の部分の数字が低い。コロナ禍ということもあり、保護者と丁寧に関わる機会が少なかったことも考えられるが、園だより、クラスだより、アプリ等を活用し、より丁寧な情報の発信を心がけたり、連携が持てる機会を計画していく等、改善点を全職員で共通認識し、今後の課題として職員一人ひとりが意識して取り組んでいきたい。

本園の保育方針を理解し、日常の保育に生かすため、自己点検、自己評価を実施することによって、保育士自らが客観的に自園を見る目を養い、保育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

※記入上の注意 回答は、あてはまるものに○をしてください。

回答数51名

① 保育理念・保育観	割合 (%)
・保育理念・目標を理解し、説明できる。	98
・本園の保育理念や目標を理解したうえで、保育内容や保育方法を考えている。	98
・児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障することが保育園の重要な使命だと理解している。	100
・あなたの保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識している。	100
・子どもの主体的な活動を促し、一人一人が意欲をもって遊べるような援助を心がけている。	100
・個人情報保護に配慮し、子どもやその家庭についての秘密を正当な理由なく漏らす事がないようにしている。	100
・育児の考え方について、保護者とあなたが食い違っているとき、まず相手の気持ちを受けとめ、話し合い、その保護者の立場や考え方を理解するよう努めている。	88
・すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重している。	100
② 苦情解決対応	
・保育園の社会的責任を理解し、苦情解決の対応を行っている。	84
③ 保育の内容	
1) 保育計画・指導計画	
・指導計画を作成するとき、「保育所保育指針」を参考にしている。	98
・全体的な計画に基づいて、指導計画を作成している。	100
・月・週案には、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿をふまえた保育内容を作成している。	98
・季節感や日本人の伝統的な行事などを指導計画のなかに取り入れるようにしている。	100
・子どもの興味・関心や意欲に合わせて活動が展開できるように、週・日案などの指導計画を、作成している。	100
・0歳児（入園）から小学校入学までの一貫した発達の連続性を理解し、計画作成に取り組んでいる。	98
2) 子どもとのかかわり	
【生命の保持・情緒の安定】	
・子どもの発達の特性や発達過程を理解し、発達の連続性に配慮して保育をしている。	98
・子どもの一人一人の個人差を尊重して、保育している。	100
・登園時に優しく声をかけるなど、状況に応じて対応をしている。	94
・子どもの言葉にならない思いやサインなど、心の動きを理解するように努めている。	100
・子どもの気持ち理解し、信頼関係を築くよう心掛けている。	100
【健康支援】	
・身長、体重などの定期的な計測や健康状態などの結果から、子どもの発達・発育状況を把握して日常の保育に生かしている。	94
・日常の保育提供において、子どもが食事や排せつなどの生活に必要な活動に自ら取り組めるよう配慮した支援を心掛けている。	98
・子どもがトイレの後や食前の手洗いなど、清潔にする習慣が身につくよう働きかけている。	100
・アトピー性皮膚炎・食物アレルギー等の子どもに対して、医師の指導のもと、えがお室、保育士、調理員が連携をとり、安全で適切な対応をしている。	94
・虐待の疑いがある情報を得たとき、要保護児童対策地域協議会や児童相談所などに照会、通告を行う園の体制を理解している。	96

【災害への備え】	
・地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練等に参加し、非常災害時にあなたが何をしなければならぬか理解している。	98
【人とのかかわり】	
・子どもが友達とのかかわりで、友達のよさや大切さに気づく指導を心がけている。	100
・子どもが活動を通して、共用の道具や遊具を大事にすることを体験できるようにしている。	100
・子どもに人と心が通じ合う喜びを伝えるように接している。	100
・子どもに地域の人や高齢者と親しむ機会をつくっている。	90
・子どもが家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちを育てている。	96
・地域に興味関心もてる保育活動の大切さを理解している。	96
【表現活動】	
・子どもが感じたことや考えたことを自由に表現する機会をつくっている。	94
・音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを表現できる場を作っている。	94
・子どもの作品を大切に扱い、工夫して飾るなどしている。	90
・自分で出来たという充実感を味わえるような活動を取り入れていますか	92
【言葉】	
・職員が子どもや保護者・地域住民等に対して、また、職員同士で心のこもったあいさつができるよう、日常生活を通じて心掛けている。	100
・日常の言葉遣いにおいて、必要な時にはためらうことなく「ありがとう」や「ごめんなさい」等と言ひ、相手の気持ちを大切にしよう心掛けている。	100
【食育】	
・食育の計画を作成し、日々の保育の中で子どもの「食を営む」の育成に向け、その基礎を培わなければならないことを理解している。	94
・子どもが栽培・収穫したものや調理したものを食べる機会を作り、自園が食育に取り組んでいることを知っている。	96
④ 保育の環境	
【環境づくり～心地よい生活の場】	
・子どもの発達に合った環境で子どもが心地よく過ごすことが出来るように配慮している。	96
・子どもとの温かなやり取りやスキンシップを、常に心掛けている。	98
・室内の温度や湿度、換気をたえずチェックしている。	96
【環境づくり～成長を促す】	
・日常的な生活や環境のなかで、子どもの導線を考えて、遊具や用具を配置し、子どもの自発性や興味・意欲を促すよう配慮している。	96
・伝統的な行事を生活のなかに取り入れている。（七夕、もちつき、節分、雛祭り）	94
【安全・事故防止・衛生管理】	
・園の衛生管理マニュアルをもとに、日々保育室や手洗い場、トイレを適宜清掃し、常に清潔を保ち、子どもたちが健康に過ごせる環境を整備している。	96
・子どもが危険を意識して行動するよう、安全について指導している。	96
・子どもの手の届く範囲にあるものの安全性についていつも確認している。	98
・「新しい生活様式」を取り入れた保育や環境整備に努め、感染症予防対策 を行っている。	96

⑤ 家庭との連携	
【情報の発信と受信】	
・保育の方針や内容を保護者にわかりやすく説明している。	78
・送迎時や連絡帳などでの日常的な情報のやり取りを大切にしている。	82
・必要に応じて、保護者との意見交換の機会を設けている。	78
【子育て支援】	
・家庭と協力して、子どもが健康的な生活リズムを身につけられるようにしている。	90
・日常の保護者とのコミュニケーションにおいて、保護者が悩みや不安を気兼ねなく話せるよう、会話や態度、雰囲気作りなどに配慮している。	86
・送迎の際に保護者と言葉を交わしたり、連絡帳で情報を交換したりするようにしている。	86
・保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している。	84
⑥ ほかの保育者とのかかわり	
【良好な関係と協調性】	
・園長や主任、同僚の言葉を素直な気持ちで受け入れている。	100
・報告や連絡、相談をするように心掛けている。	100
・園が目指す目標に向けて互いに協力している。	100
【職員の資質向上】	
・保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならないことを理解している。	98
・保育のよさや課題を話し合っ明にし、見直しや改善につなげている。	98
・研修などを通して、互いに知識や技術の習得を図っている。	94
・挨拶・電話・来客対応ができる。	98
・言葉遣いに気を付け、常に笑顔を心掛ける。	100
・保育士マニュアルのもと、保育者として服装や身支度などにも考慮し、自らの健康と清潔に心掛けている。	100
・自己の健康管理ができる。	98
・自己評価など、自分の保育を振り返る機会を定期的にもっている。	100
⑦ 年齢別、担当別項目	
【乳児保育担当者】	
・特定の保育者との継続的なかかわりとともに、職員間で連携をとって保育をしている。	88
・子どもの基本的な欲求を受け止め、ふれあい、満足させることができる。	88
・必ずうつぶせでは寝かせないようにしている。	88
【幼児担当者】	
・子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築ける。	92
・小学校との連携や就学に関する事項を指導計画のなかに位置づけている。	94
・保育所保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している。	92
・小学校教育や関係機関、地域との円滑な接続（連携）が、子どもたちの安心や成長に繋がり、大切だという事を理解している。	92